

# 評 価 結 果

## (2) 施策の総合評価



平成27年度 施策総合評価

施策名	1. 学校教育の充実 2. 子育て支援の充実	主管課	教育総務課
平成27年度に取り組んだ事業の概要	<p>教育総務課の主な事務として、「教育委員会の会議運営」、「学校施設の整備充実」、「育英資金貸付事業」、「学校給食施設の充実と食育の推進」、「地域における子育て支援の充実」に取り組んだ。</p> <p>「教育委員会の会議運営」に関しては、定例会はもとより、必要に応じて開催される臨時会の運営も臨機応変に開催することができた。また、会議録の公表についても、市民から見て分かりやすいように要約版にして公開するなど情報公開に積極的に取り組んでいる。そのほか、教育委員が自ら自主研修（ICTを活用した公開授業 熊本県八代市）を行うなど積極的に取り組まれた。</p> <p>次に「学校施設の整備充実」については、限られた予算の中で安心・安全な学校施設の維持に取り組んできた。また、大型事業である桜岡小学校プール改築事業に関して用地買収を順調に進めることができた。</p> <p>「育英資金貸付事業」については、滞納者が昨今の経済情勢や就職難等の多様な諸事情に伴い増加傾向にある一方で、申請者は貸付時期が遅いことや貸付額が少ないこと、他にもいろいろな育英資金貸付制度や奨学金制度があるため減少傾向にある。滞納者へは、督促通知や電話等で催促等を行い、一部完済する者も出てきたが、その一方で新たに滞納する者がでており、全体的に見ると変わらない状況である。</p> <p>「学校給食施設の充実と食育の推進」については、学校給食を通じた食育を実施し、地産地消に取り組んだ。また、安心安全な給食を提供するために、研修の充実を図った。</p> <p>「地域における子育て支援の充実」については、放課後児童クラブの運営において土曜日の毎週開設や開設時間を延長した。また、平成28年度より4年生以上の児童を受け入れるための専用施設の建設や学校内施設の改修を行なった。</p>		
平成27年度の取り組みに関する自己評価	<p>「学校施設の整備充実」及び「学校給食施設の充実と食育の推進」、「地域における子育て支援の充実」にては、目標を達成したが、「教育委員会の会議運営」では傍聴者が少ないことや「育英資金貸付事業」では滞納状況が改善するまで至らなかった点などを踏まえ、全体的には「おおむね達成」と考える。</p>		
自己評価総合判定	<p>A 達成    <b>B おおむね達成</b>    C やや不十分    D 不十分</p>		
評価委員会による総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校施設の整備充実」及び「学校給食施設の充実と食育の推進」、「地域における子育て支援の充実」、「教育委員会の会議運営・広報活動」については評価できるが、会議への傍聴者が少ないことや「育英資金貸付事業」で滞納状況が改善するまで至らなかった点は課題として残る。滞納者については、きびしいだろうが少し踏み込んだ督促の方法を検討して欲しい。</li> <li>放課後児童クラブについては、今後ますます保護者の要望は際限なく広がって行くのが目に見えているし、予算も際限なく拡大していく。それらの要望に対しどう対処すべきか、今後の短・長期に向けて相応の対策を講ずることが望まれる。</li> </ul>		
評価委員会総合判定	<p>A 達成    <b>B おおむね達成</b>    C やや不十分    D 不十分</p>		
取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成28年度以降の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会は、総合教育会議による市長との意見交換や各委員の積極的な活動により十分機能しており、事務局としては、各委員の活動をサポートすると共に研修の機会を確保し、傍聴者が増えるよう広く市民に活動状況を広報していくよう努めていく。</li> <li>学校施設整備については、第2次小城市立学校教育施設整備計画に基づき、財政状況を勘案しながら計画的に事業を推進していく。</li> <li>学校給食については、食の安全を第一に、これまでどおり取り組んでいくと共に、今後の学校給食の運営及び施設のあり方について検討していく。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における子育て支援の充実の一つとして取り組んでいる放課後児童クラブについては、保護者のニーズに応えられるよう努めていく。</li> <li>育英資金貸付事業については、滞納者に対して返済計画の見直しや返済に関する相談を実施し、合わせて連帯保証人へも相談し、滞納額を減らすよう努めていく。</li> </ul>
--	---

## 平成27年度 施策総合評価

施策名	1. 学校教育の充実	主管課	学校教育課
平成27年度に取り組んだ事業の概要	<p>学校教育課では、「小・中学校教育内容の充実」、「心の問題への対応」、「特別支援教育の充実」、「家庭や地域との連携強化、安全対策の強化」、「教職員の資質向上」、「情報教育の充実」に取り組んだ。</p> <p>特に、「特別支援教育の充実」については、子ども支援センターでの対応や文部科学省指定の三日月小学校・中学校の特別支援教育に関する研究について公開授業を行った。</p> <p>また、「情報教育の充実」については、平成24・25年度に整備した校内LAN、電子黒板、学習端末機（タブレット型PC）を活用し、指導方法改善に取り組んだ。</p> <p>平成27・28年度、文部科学省委託の「情報教育自治体応援事業」においては、佐賀大学との連携により、道徳教育における情報モラル教育の在り方について研究し、小学1年生から中学3年生すべての学年における「モデルカリキュラム」の作成を進めている。</p> <p>さらに、各学校における家庭教育の指針の作成・配布、セーフティネット会議を行った。</p>		
平成27年度の取り組みに関する自己評価	<p>「小・中学校教育内容の充実」では、義務教育の最終である進路について、中学3年生のほとんどが行きたい学校へ進学した。また、「特別支援教育の充実」については、様々な支援体制により、一人ひとりの教育ニーズに応じることができており、学校体制や教職員の資質向上が図られた。</p> <p>「情報教育の充実」については、岩松小学校の研究に関する情報を発信するとともに、市学力向上研究会のICT研究部会において、小中学校の実践及び実践データの蓄積ができてきている。また、文部科学省の研究指定の実践により、情報モラルに関する指導のモデルカリキュラム作成や実践の情報発信ができてきている。</p>		
自己評価総合判定	A 達成	B おおむね達成	C やや不十分 D 不十分
評価委員会による総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小・中学校教育内容の充実」、「心の問題への対応」、「特別支援教育の充実」、「家庭や地域との連携強化、安全対策の強化」、「教職員の資質向上」、「情報教育の充実」など多岐にわたりよく取り組んでいる。特に、文部科学省指定の三日月小学校・中学校の特別支援教育に関する研究について公開授業を行ったことや情報モラルに関する指導のモデルカリキュラム作成や実践の情報発信ができていくこと及び中学3年生のほとんどが行きたい学校へ進学できたことなど、これらの取り組みは学校体制や教職員の資質向上にも繋がる施策で評価出来る。</li> <li>特別支援教育の充実に関しては、子どもに対しての支援は多様化していると思われる。小城市としてさらに学校での支援体制が充実したものとなるよう人的配置や予算の確保をお願いしたい。</li> <li>ICT教育については、先進的な取り組みをされ、かつ教育実践に生かされているが、授業全体から利用度は低いように思う。情報モラル教育の在り方については統一した指導のもと、学校内だけでなくとどまらず、家庭・社会でのモラルのあり方についての指導が大切だと思う。今後も機器の上手な利活用を推進してほしい。</li> </ul>		
評価委員会総合判定	A 達成	B おおむね達成	C やや不十分 D 不十分

<p>取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成28年度以降の取組の方向性</p>	<p>学校教育については、様々な方向から多面的に取り組む、「生きる力」を創造し、総合的な人間教育と豊かな人間形成に努めていく。</p> <p>また、支援を必要とする子ども達についても、一人一人の教育ニーズに沿って十分な支援ができるよう市教委（子ども支援センター）・学校・関係機関・家庭等の連携強化体制や指導力の充実につながるよう支援に努めていく。</p> <p>さらに、ICT利活用については、小城市の取組内容等についての情報を家庭や地域・市外にもPRするとともに、学習の成果に繋がるようより一層の利活用の工夫に取り組んでいく。</p>
---	--

### 平成27年度 施策総合評価

施策名	3. 保育・幼児教育の充実	主管課	保育幼稚園課
<p>平成27年度に取り組んだ事業の概要</p>	<p>平成27年度は、「保育・幼児教育の充実」に関する、下記の3事業を実施した。</p> <p>「保育・幼児教育事業の推進」については、1号・2号・3号の支給認定、並びに、保育・幼児教育施設への「保育給付」「教育給付」などを実施した。</p> <p>「職員の資質向上」については、園訪問事業及び小城市幼児教育・保育ネットワーク事業により、園及び職員の研修、及び、ネットワークの構築を行った。</p> <p>「保育・幼児教育環境の整備」については、三日月幼稚園の下水道接続や砥川保育園の給食用回転釜導入など、公立園の環境整備に努めるとともに、民営化推進により平成29年度に芦刈幼稚園の移管先となる法人の認定こども園整備について支援を行った。</p>		
<p>平成27年度の取組に関する自己評価</p>	<p>平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、就学前の子どもに関する制度が大きく変わり、保育所措置費としての給付事業と、従来私学助成制度で実施されていた幼稚園への給付事業が1本化され「保育給付」「教育給付」となり、入所に関しては、1号、2号、3号の支給認定制度が導入されるなど、事務事業量や予算が大きく増加した。</p> <p>職員全員で新たな事業に対する情報を共有し、事務事業の精査と振り分けを行ない、何事にも協議を重ねて取り組んだ。</p> <p>事務事業全般としては、「おおむね達成」と考える。</p>		
<p>自己評価総合判定</p>	<p>A 達成    <b>B おおむね達成</b>    C やや不十分    D 不十分</p>		
<p>評価委員会による総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・子育て支援新制度が始まり、事務事業量や予算が大きく増加した中で、情報を共有し、協議を重ねて「保育・幼児教育事業の推進」「職員の資質向上」「保育・幼児教育環境の整備」など、よく取り組んでいると思うが、適切な対応が望まれる。増加した事務事業が各保育所・幼稚園の負担とならぬよう人的補助や業務の精選などを考えながら進めてほしい。</li> <li>幼稚園・保育園職員の研修確保は勤務の制約等厳しいとは思いますが、昨年より今年、さらに来年へと研修会数、研修の質も向上してほしい。</li> </ul>		
<p>評価委員会総合判定</p>	<p>A 達成    <b>B おおむね達成</b>    C やや不十分    D 不十分</p>		
<p>取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成28年度以降の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・子育て新制度も2年度目に入り、制度内容の把握はできたものの、子ども・子育てに関する事業が目まぐるしく変わってきている。今後も情報を共有し、共通理解のもと、協議を重ねて取り組んでいくと共に、入所判定や保育料算定を複数の目で確認するなど、相互協力体制で臨む。</li> <li>職員の資質向上に向けた研修については、小城市全体の就学前施設で子ども達が生き生きと過ごせるよう、市内の公立・私立すべての園の保育力・教育力の向上を目指し、職員の意向を確認するとともに、新制度に沿った研修内容の提案も試みるなど、よりよい内容になるよう努めていく。</li> </ul>		

## 平成27年度 施策総合評価

<p>施策名</p>	<p>4. 青少年の健全育成 5. 生涯学習の充実 6. 生涯スポーツの充実 7. 芸術・文化の振興と文化財の保護・活用</p>	<p>主管課</p>	<p>生涯学習課</p>
<p>平成27年度に取り組んだ事業の概要</p>	<p><b>4.青少年の健全育成</b></p> <p>小城市青少年育成市民会議の活動を中心に、例年とおりの行事を開催し、ある程度の参加者を得られた。本会議では、子どもへの安全対策への取組は力強く行われている。</p> <p>子ども達への事業として、放課後子ども教室の交流事業を行っているが、参加者数が少ない状況にある。夏休み子ども宿泊研修は、市内史跡めぐりや、防災をテーマに段ボールベッド作成や非常食の体験を行った。</p> <p>健全育成啓発事業として、基本的な生活習慣を身につけることを目的に「早寝早起き朝ごはん」カレンダーを作成し、市内の幼稚園、保育園の園児、小・中学生の家庭に配布するなど、引き続き意識の高揚を図った。</p> <p><b>5.生涯学習の充実</b></p> <p>公民館主催の各種講座について、見直しを行い「小城市公民館体験講座」を充実させた。社会教育委員の会から「学校と地域を結ぶ絆づくり」についての提言を得た。</p> <p>また、自治公民館建設補助事業・自治公民館ユニバーサルデザイン（トイレ洋式化）補助事業の推進や、牛津公民館改修工事・周辺整備工事が完了し、よりよい環境づくりに取り組んだ。</p> <p>小城公民館、桜岡支館も施設の移転を行い、利用者への調整を図った。</p> <p>その他の公民館について老朽化が進んでおり、安心して使える施設への対応を随時行ってきた。</p> <p>その他、社会教育団体である地域婦人会及び文化連盟への支援を行った。</p> <p><b>6.生涯スポーツの充実</b></p> <p>小城市スポーツ推進委員50人の活動に対する支援、サガン鳥栖交流事業、全国・九州大会等出場費補助事業、夏の学校施設プール開放事業等を実施し、参加（関係）者などに一定の成果を見た。また、スポーツ基本法に基づき、小城市の実情に応じたスポーツ推進計画を策定した。</p> <p>施設管理については、小城体育センター、三日月体育館、牛津体育センター、芦刈文化体育館等の社会体育施設の経年劣化等による維持管理（修繕）事業を、適時適切に対応し、利用者の利便性の向上や安全で快適な施設の維持に努めた。</p> <p>また、（一財）小城市体育協会に、社会体育施設8施設の指定管理（H23～H27）について、平成28年度からも指定管理とする手続きを行った。</p> <p><b>7.芸術・文化の振興と文化財の保護・活用</b></p> <p>文化活動については、小城市文化連盟の活発な活動により、美工展、ひな祭り等多彩な発表の場、体験の場が設けられており、適時公民館等による支援も実施している。</p> <p>また、秋の文化祭は公民館とともに、展示会や芸能祭など協働による活動が広がっている。</p> <p>そのほか、文化人財バンクの制度により、小学校への講師派遣等が行われ青少年活動でも活躍されている。</p>		

平成27年度の取り組みに関する自己評価	<p>費用的に大きなウエイトを占めた事業として、牛津公民館等の改修、小城公民館、桜岡支館の移転があったが、細かな調整を行いながら完了することができた。</p> <p>また、ソフト面では、社会教育委員の会からの提言「学校と地域を結ぶ絆づくり」、スポーツ基本法に基づく「スポーツ推進計画」が策定できた。</p> <p>各公民館においても、改善を重ねた事業を実施しているとともに、文化連盟、体育協会、青少年育成会活動へのサポートもしっかりと行ってきた。</p>		
自己評価総合判定	A 達成	B おおむね達成	C やや不十分 D 不十分
評価委員会による総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>「青少年の健全育成」「生涯学習の充実」「生涯スポーツ」「芸術文化の向上」と各領域にわたり活動の成果がみられると思う。特に子どもたちの【早寝早起き朝ご飯】カレンダーの作成と生活習慣形成、「学校と地域を結ぶ絆づくり」や「スポーツ推進計画」を作成し、小中学生の九州・全国大会参加者など、がんばっている子どもたちへの市からの補助も、大変評価できるが、生涯学習の充実のサポートがもう一つと思う。特に、地域婦人団体へのサポートは何らかの方法を検討する必要があるのではないかと思う。</li> <li>牛津公民館、小城公民館、桜岡支館の移転、改修が完了したことで、各地域の文化活動などがさらに充実すると思われる。また、災害に対する避難場所としても、市民が安心して利用できると思う。今後とも、小城市のスポーツ・文化活動の発展に大いに取り組んでほしい。各事業については、マンネリ化を克服し、昨年度と何が違ったか、何が向上したか、という評価を常に行い、次年度は、本年度とどこが違うのか、という観点で事業を計画してほしい。</li> </ul>		
評価委員会総合判定	A 達成	B おおむね達成	C やや不十分 D 不十分
取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成28年度以降の取組の方向性	<p>「第2次小城市総合計画」に基づき、来年度には「小城市生涯学習振興計画」の改定を行うため、「生涯学習推進に向けた市民アンケート調査」を実施し、市民から何を求められているかの把握に努めていく。</p> <p>平成28年度より小城公民館「長寿大学」の事業を見直し、事業の対象を広げ「大人塾」として始めたように、常に事業の内容、PR等について振り返りを行いながら事業を進めて行く。社会教育関係団体への支援も状況に応じて行っていく。</p> <p>また、施設管理としては三日月体育館改修工事について滞りなく進め、その他施設についても安全安心を念頭に適時予算の範囲内にてスムーズに補修等を実施する。</p>		

## 平成27年度 施策総合評価

施策名	5. 生涯学習の充実 7. 芸術・文化の振興と文化財の保存・活用	主管課	文化課
平成27年度に取り組んだ事業の概要	<p>5. 図書館利用の推進</p> <p>(1) 利用者の対象を近隣の市町まで拡大した。</p> <p>(2) 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス利用を開始した。</p> <p>(3) 学校図書館との連携、支援を行った。</p> <p>(4) 第二次小城市子どもの読書活動推進計画を策定した。</p> <p>(5) おとうさんおはなし会を行った。</p> <p>(6) 牛津分室の移転を行った。</p> <p>(7) 図書館の来館者が増加した。</p>		

	<p>7. 芸術・文化の振興と文化財の保存・活用</p> <p>(1) 伝統芸能団体の発表の機会を設けることができた。団員不足や指導者の不在等で活動を縮小、休止する団体がある。</p> <p>(2) 高度芸術鑑賞の機会を2回設けたが反響がよく多くの参加者があった。</p> <p>(3) 開発に伴う埋蔵文化財の調査件数が増加傾向にあるが、開発側との調整に努めた。発掘調査成果の展示会を行い調査成果を公開した。</p> <p>(4) 「牛津駅絵図」の市文化財指定を行った。「JR 唐津線小城駅本屋」が国登録有形文化財、22世紀に残す佐賀県遺産となった。</p> <p>(5) 文化財マップを作成し、各所に配布した。</p> <p>(6) 文化財収蔵施設の一元化・確保を進めた。</p> <p>(7) 地方創生先行型交付金を活用し歴史的建造物活用事業を行った。</p> <p>(8) 書に親しむ日を開催し、幅広い年齢層で多くの参加者を得た。</p> <p>(9) 梧竹デジタルミュージアムを市ホームページ上に開設した。</p> <p>(10) 梧竹特別展「里帰り梧竹堂法帖展」を行った。</p>
<p>平成27年度の取り組みに関する自己評価</p>	<p>5. 図書館利用の推進 牛津分室移転、利用者範囲拡大などに取り組み、実現することができた。</p> <p>7. 芸術・文化の振興と文化財の保存・活用 文化財保護と開発との調整を図ることができた。新たに文化財指定、歴史的建造物活用事業などの文化財の保存・活用を行うことができた。梧竹デジタルミュージアムの開設、梧竹特別展を行い梧竹の業績を公開することができた。</p>
<p>自己評価総合判定</p>	<p>A 達成      B おおむね達成      C やや不十分      D 不十分</p>
<p>評価委員会による総合評価</p>	<p>「生涯学習の充実」「芸術・文化の振興と文化財の保存・活用」など少ない予算の中で努力し、例年通り多くの事業・行事に取り組んでいる。特に図書館利用対象の地域拡大については評価できる。しかし、夏休み、冬休み等の子供の居場所、大人がじっくりと本を読むスペースが少ない（特に牛津・芦刈）ように感じる。図書館利用に関しては継続して利用者が増えていくよう努めてほしい。また、芸術・文化の振興と文化財の保存活用については色々な活動を実践しており評価できる。高度芸術鑑賞も出演者・鑑賞者共々一体感が生まれとても良い事業だと考える。</p>
<p>評価委員会総合判定</p>	<p>A 達成      B おおむね達成      C やや不十分      D 不十分</p>
<p>取り組んだ事務事業全般の評価を踏まえた平成28年度以降の取組の方向性</p>	<p>図書館利用の推進については、図書館資料の充実に努め、職員の資質の向上、子どもや大人が利用しやすい図書館づくりを目指す。</p> <p>芸術・文化の振興と文化財の保存・活用については、高度芸術の鑑賞、伝統芸能の保存・継承、小城屋根のない博物館構想に基づく文化財保存・活用、中林梧竹の顕彰、書に親しむ機会の創出に努める。</p>